

目次

序文	i
----	---

第1章 緒論

1. 長い歴史を経て生み出された中医学理論	2
2. 中医学理論の基礎となる古代思想	4
唯物観 5	弁証観 6
3. 中医学の基本的な特徴	8
整体観念 9	弁証論治 11
4. これから学ぶ『中医基礎理論』の主な内容	14

第2章 陰陽五行

第1節 陰陽学説	16
1. 陰陽学説の基本的な内容	17
陰陽の交感 17	陰陽の消長平衡 18
陰陽の対立と制約 17	陰陽の相互転化 20
陰陽の互根互用 18	
2. 中医学における陰陽学説	22
人体の構造への応用 22	疾病の診断への応用 28
人体の生理機能への応用 22	疾病の治療への応用 29
人体の病理変化への応用 23	
第2節 五行学説	31
1. 五行学説の基本的な内容	31
五行の特性 31	五行の相互関係
事物の五行への属性 32	(相生・相克・相乗・相侮) 33
2. 中医学における五行学説	35
五臓の生理機能とその相互関係への 応用 35	五臓の病変の伝変への応用 36 診断と治療への応用 38
3. まとめ	43

第3章 歳象

第1節 五臓	49
1. 心	49
心の生理機能	49
心の志・液・体・竅	51
【附】心包絡	52
2. 肺	53
肺の生理機能	53
肺の志・液・体・竅	56
3. 脾	58
脾の生理機能	58
脾の志・液・体・竅	60
4. 肝	61
肝の生理機能	61
肝の志・液・体・竅	66
5. 腎	68
腎の生理機能	68
腎の志・液・体・竅	74
【附】命門	76
第2節 六腑	79
1. 胆	80
胆の生理機能	80
2. 胃	81
胃の生理機能	81
3. 小腸	83
小腸の生理機能	83
4. 大腸	84
大腸の生理機能	84
5. 膀胱	85
膀胱の生理機能	85
6. 三焦	86
三焦の生理機能	87
上焦・中焦・下焦の部位, およびそれぞれの生理機能	87
第3節 奇恒の府	89
1. 脳	89
脳の生理機能	89
2. 女子胞	91
女子胞の生理機能	91
女子の生理機能を遂行させるもの	92
第4節 臓腑間の関係	94
1. 臓と臓の関係	94
心と肺	94
心と脾	95
心と肝	96
心と腎	97
肺と脾	99
肺と肝	100

肺と腎	101	肝と腎	103
肝と脾	102	脾と腎	104
2. 腑と腑の関係	105		
3. 臓と腑の関係	106		
心と小腸	106	肝と胆	108
肺と大腸	107	腎と膀胱	108
脾と胃	107		

第4章 気血津液

第1節 気	113
1. 気の基本概念	113
2. 気の生成	113
3. 気の生理機能	114
推动作用	114
温煦作用	114
防御作用	114
固摂作用	115
気化作用	115
4. 気の運動とその形式	116
5. 気の種類とその分布	118
元気	118
宗気	118
營気	119
衛気	119
第2節 血	121
1. 血の基本概念	121
2. 血の生成	121
3. 血の機能	122
4. 血の運行	123
第3節 津液	125
1. 津液の基本概念	125
2. 津液の生成・輸布と排泄	125
3. 津液の機能	127
第4節 気・血・津液の相互関係	128
1. 気と血の関係	128
気の血に対する作用	128
血の気に対する作用	129
2. 気と津液の関係	130
気の津液に対する作用	130
津液の気に対する作用	131
3. 血と津液の関係	131

第5章 経絡

1. 経絡の概念と経絡系統の構成	134
経絡の概念 134	経絡系統の構成 134
2. 十二経脈	137
1 十二経脈総論	137
名称 137	走行, 接続, 分布, 表裏関係, 流注の順序 138
2 十二経脈各論	141
手の太陰肺経 141	足の太陽膀胱経 147
手の陽明大腸経 142	足の少陰腎経 148
足の陽明胃経 143	手の厥陰心包経 148
足の太陰脾経 144	手の少陽三焦経 150
手の少陰心経 145	足の少陽胆経 151
手の太陽小腸経 146	足の厥陰肝経 152
3. 奇経八脈	153
督脈 153	帯脈 157
任脈 154	陰蹻脈・陽蹻脈 157
衝脈 155	陰維脈・陽維脈 158
4. 経別・別絡・経筋・皮部	160
経別 160	経筋 164
別絡 162	皮部 166
5. 経絡の機能と経絡学説の応用	166
経絡の機能 166	経絡学説の応用 168

第6章 病因と発病

第1節 病因	172
1. 六淫	173
風 174	湿 178
寒 175	燥 179
暑 177	火(熱) 180
2. 瘧気	182
3. 七情内傷	183
臓腑の気血と七情の関係 183	七情による発病の特徴 183
4. 飲食と劳逸	185
飲食不節 185	劳逸による損傷 187
5. 外傷	188
6. 痰飲と瘀血	189

痰飲 189

瘀血 190

第2節 発病	192
1. 邪正と発病	192
正気の不足 192	邪正闘争 193
邪気 192	
2. 内外環境(身体の内外の環境)と発病	194
外の環境と発病 194	内の環境と発病 195
3. 発病の類型	197
感邪即発 197	繼発 198
伏而後発(潜伏した後の発症) 197	合病と併病 198
徐発 198	複発(再発) 199

第7章 病機

1. 邪正盛衰	202
邪正盛衰と虚実の変化 202	邪正盛衰と疾病の転帰 205
2. 陰陽失調	206
陰陽偏勝 207	陰陽格拒 212
陰陽偏衰 209	陰陽亡失 213
陰陽互損 211	
3. 気血津液の失調	214
1 気血の失調	214
気の失調 214	気と血の相互関係の失調 219
血の失調 217	
2 津液の失調	221
津液代謝の失調 221	津液と気血の相互関係の失調 224
4. 内生五邪	225
内風(風気内動) 225	内燥(津傷化燥) 230
内寒(寒從中生) 228	内火(内熱)(火熱内生) 230
内湿(湿濁内生) 229	
5. 経絡の病機	232
経絡の気血の偏盛と偏衰 233	経絡の気血運行の阻滞 234
経絡の経気昇降の異常と 気血運行の異常 233	経絡の気血の衰弱 234
6. 臓腑の病機	235
1 五臓の機能の失調	235
心の陰陽と気血の失調 236	肺の陰陽と気血の失調 239
脾の陰陽と気血の失調 242	腎の陰陽と気血の失調 247
肝の陰陽と気血の失調 244	

2 六腑の機能の失調	250
胆の機能の失調	250
胃の機能の失調	250
小腸の機能の失調	253
3 奇恒の府の機能の失調	255
脳	255
髄と骨	256
大腸	253
膀胱	254
三焦の気化機能	255
脈	256
女子胞(胞宮)	257

第8章 予防と治療の原則

第1節 予防	262
1. 未病先防 — 疾病の発生を防ぐ	262
正気を強める	262
邪気の侵入を防ぐ	263
2. 既病防変 — 疾病の進行を防ぐ	264
早期診断と早期治療	264
疾病の伝変の法則に基づいて、 続発する疾病を防ぐ	264
第2節 治則	266
1. 治病求本	266
正治と反治	267
治標と治本	269
2. 扶正と祛邪	271
扶正と祛邪の概念およびその関係	271
扶正祛邪の運用の原則	272
3. 陰陽の調整	273
陰陽の偏盛の調整	273
陰陽の偏衰の調整	273
4. 臓腑の調整	274
各臓腑の機能の調整	274
臓腑間の関係の調整	278
5. 気血の調整	279
気と血の調整	279
気血の関係の調整	279
6. 因時・因地・因人制宜	281
因時制宜	281
因人制宜	282
因地制宜	281
参考書籍	284
学習のまとめ 復習問題の解答	285
索引	286